

千葉県四街道市

四街道さつき幼稚園

■クラス数／6クラス

■幼児数／131名

■建築主／学校法人下志津学園

■所在地／四街道市下志津新田 2531-9

■敷地面積／5,547.20m²■建築面積／1,484.25m²■延床面積／1,417.78m²

■構造・規模／木造＋鉄骨造 地上1階建

■施工期間／2006年7月～2007年2月

※クラス、幼児の数は平成22年3月末現在

教育方針

- 健康で明るい子
- 自然や美しいものに感動する心を持つ子
- 自ら学び、自ら考える子
- 自立心、自己抑制力のある子
- 他人を思いやる心を持つ子

子どもたちが戸外で過ごす時間が少なくなりつつある今、外で、自然に触れ自分の手足を使い、自分で感じ、生きている実感を持てる生活ができる幼稚園を目指しています。

毎日が遠足気分。自然と触れ合え、運動できる幼稚園。

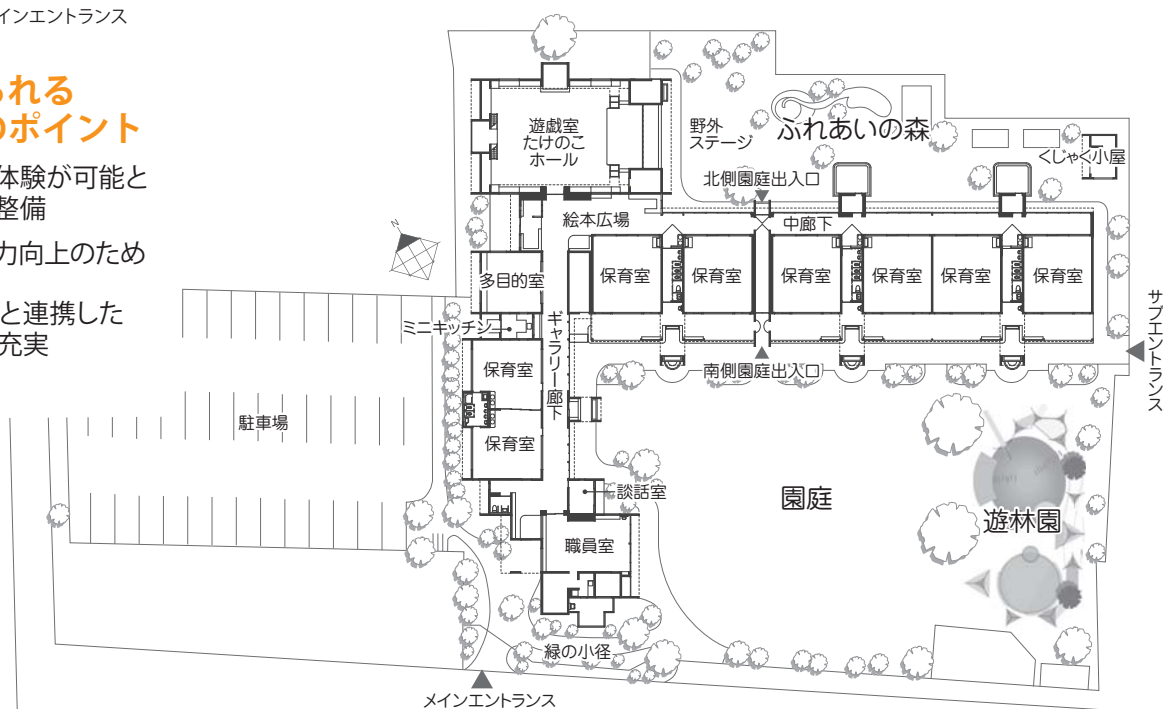
目指したもの－「芝生でござり、お池で観察、野菜果物の栽培」「子どもたちが自然とふれあえる様々な環境」「野外ステージでは、発表会にコンサート」「砂場やお山、園庭から園舎までを走り回る」「自分で感じて、自分を育てる施設・環境づくり」



緑にかこまれた園舎とメインエントランス

計画に見られる
指針改訂のポイント

1. 多様な生活体験が可能となる環境の整備
2. 子どもの体力向上のための空間
3. 家庭や地域と連携した施設整備の充実



■配置図兼1階平面図

多様な生活体験が可能となる環境の整備

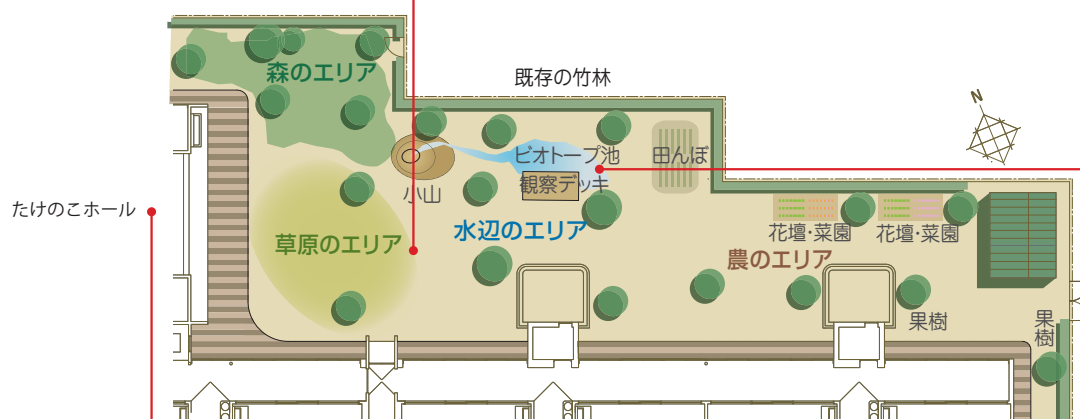
「緑化スペースを園地全体に積極的かつ効果的に取り入れた施設計画」



1 既存の竹林を生かした緑あふれる園庭



2 幼児によるビオトープ観察台での自然体験



3 保育室の北側に位置するふれあいの森



4 たけのこホールや野外ステージでコンサートなどを開催、発表の場や地域交流の場として活用



5 園舎南側の「遊林園」で遊ぶ幼児たち

園長の視点から

「ふれあいの森」で たくさんの自然とふれあう

幼児が様々な自然を体験できる「ふれあいの森」を整備しました。①実のなる樹木の繁る「森のエリア」、②バッタなどが訪れる「草原のエリア」、③メダカなどが生息する「水辺のエリア」、④田んぼや花壇、菜園などのある「農のエリア」からなります。小さな生き物とふれあったり、収穫された作物を食べたりしながら、子どもたちは生きている喜びを感じ、生きる力をはぐんでいます。(写真1、2、図3)

家庭や地域ともつながる 「たけのこホール」

園舎北側の「たけのこホール」のステージは屋内のステージとしてだけでなく、野外ステージとしても利用されています。地域の方々を招いて発表会を開催することもあり、地域交流の場にもなっています。園庭の手入れや整備の一部は保護者が率先して行なってくださり、「次はなにをしよう」という発展的な声があがるほど、楽しい集まりとなっています。(図4)

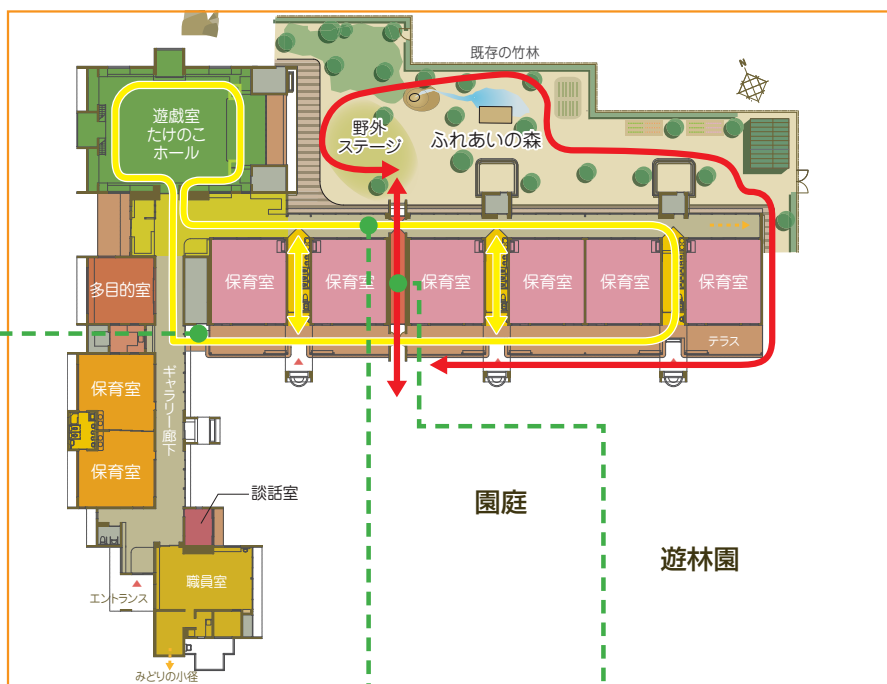
遊び環境を充実させる、 「遊林園」

「遊林園」は、遊びへの興味をかき立てるために、高低差を利用した小山やネット、ロープ、テント、鏡やレンズ、鐘など様々な遊びが可能となる三角屋根のお家、砂場など幼児の大好きな環境を設けました。園舎から通じる広々としたグラウンドの奥に配置することにより、幼児は大好きな場所まで距離を感じることなくまっすぐに走って行きます。「遊林園」で遊ぶことで、創造力と体力の向上を自然に培っています。(写真5)

子どもの体力向上のための空間
「多様な動きや、回遊性の空間が整備」



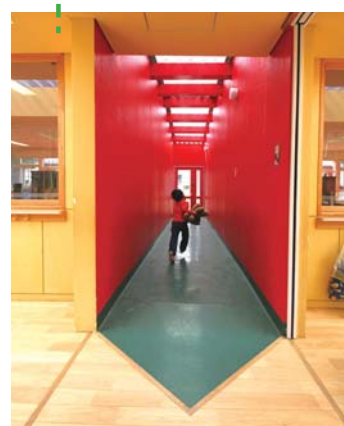
6 半屋外空間であるウッドデッキとギャラリー廊下の接続部分



7 回遊動線(遊環構造)の概念



8 大きなトップライトで明るい中廊下も回遊動線の一部



9 園庭とふれあいの森をつなぐ近道は回遊動線の一部である。緑色の部分は下足のエリアで下足のままで行来できる

子どもたちが動きたくなる
行き止まりのない動線

保育室は東西南北に走る廊下に囲まれ、園舎全体が雨の日でも楽しく走り回れる場となっています。園舎北側にある「ふれあいの森」、南側の園庭と「遊林園」は、園舎中央の下足のまま移動できる屋内廊下によってつながれています。園舎の中は行き止まりのない空間が拡がり、園庭との連続により優れた回遊性を持っています。子どもたちはこの空間の中で、元気に走り回り、異年齢の友だちとも交流を深めています。(図7の黄色部分、写真6、8、9)

子育ての支援に配慮した
様々な設備

園内の各所に設けられたベンチは送迎前後の保護者同士の憩いの場になっています。未就園児が保護者と一緒に訪れる事を想定してベビーベッドを設置した便所等も設けられています。また、落ち着いた雰囲気のある談話室が設けられており、子育て相談の場所としても活用されています。これらの結果、保護者にも楽しく、居心地の良い幼稚園になっています。(写真10～13)

〈設計者の視点から〉

- ◎外部は耐久性、耐候性のある仕上げ材とし、内部は木材を多用しあたたかみのある室内としています。子どもの事故、ケガで最も多いのが転落転倒事故です。床は根太を組み、無垢のナラ材で仕上げ転倒時の衝撃をやわらげるようにしました。(外観写真、写真8)
- ◎先生と子どもたちの関係を空間計画の中で最優先し、幼児と身近に関わることができる位置に職員室を設けています。(図7)

家族や地域と連携した設備配置の充実 ↳保護者同士の交流の機会の提供



10 多数の庭園ベンチで幼児も保護者も談笑できる



11 送迎時の保護者同士や職員との交流が気軽に行える場として、メインエントランス付近に設置されたベンチ



12 ベビーベッドを設置したトイレ



13 落ち着いた雰囲気の話室

検討委員会委員の視点から

◎一部、既存園舎を活用したいとの園の要望を踏まえ、既存保育室6教室を耐震改修し、その他の諸室を新築する計画となりました。鉄骨補強の軒を延ばして活動の場にもなるウッドデッキを設けたり、中廊下を設けたりすることで新園舎との連続性、回遊性を持たせています。(図7)

多様な生活体験が可能となる 環境の整備の観点から

園舎の南側に土のグラウンドや遊具を配置した園庭、北側にビオトープなど自然豊かな「ふれあいの森」を計画するなど、充実した生活体験の場が確保されている。

子どもの体力向上のための 空間の観点から

屋外の回遊性を確保するだけでなく、その動線上に近道を設けたり、半屋外空間と連続させるなど、子どもたちが走り回りたくなる仕掛けが盛り込まれている。園舎についても、廊下やホールを適切に配して各室を有効につないで回遊性に配慮した計画となっており、天候が悪いときも園舎内で広く活動できる。